

INGING NEWS PAPER



INGING MOTORSPORT

CERUMO

2019 Vol.04

INGING MOTORSPORT
OFFICIAL WEBSITE OF PAPER



初夏の日差しの中、
熾烈な攻防戦。



Race Report

Round.3 SPORTS LAND SUGO 6/23 Final 決勝 2019年6月23日 スポーツランド菅生

NEXT RACE ▶▶▶▶▶▶▶▶
ROUND4. FUJI SPEED WAY 7/13-14

TAKE FREE Support by cyber net



石浦 宏明

今回のレースは、戦略的に早めにピットに入ると菅生に来る前に決めて来ました。ただ1周目に入るのは、キャンセルかと思ったので、3周目まで入ることにしました。正直、3周目まで入るにしても、燃費走行を強いられることになるので、フォーミュラのレースとしては、自分が思い描くものとは違い不完全燃焼でした。チームと話しながらペースを決め走っていたので、前を追いかけるのと、自分にとって戦うレースではありませんでした。たくさん力を出し切って走りたかったという気持ちも少しあります。全体的に速いクルマを作り切れていないことが要因であるのと、チームとしては、ここ菅生で例年良い成績を収めてはいません。次の富士やもてぎは得意なサーキットなので、そこで今年のクルマとタイヤを使いこなせるようにするのが、今年の命題だと思います

命運を分けた

フェーエルマネジメント

Race Report

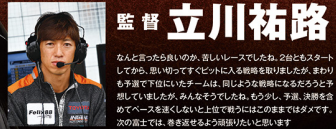
決勝 2019年6月23日 スポーツランド菅生
天候:曇り/コース状況:ドライ

Results #38 石浦 7位 #39 坪井 リタイア



坪井 翔

1周目でピットに向かいましたが、あんなにみんなが入るとは思いませんでした。その後、とにかくペースが悪くてダメでした。見えかけていたものがあったのですが、いざ菅生に来ると通用せずと言った感じでした。SPコーナーでスピンをしたことは、みなさんに迷惑をかけてしまったと思っています。とにかく遅かったので、レースにならなかったです。次の富士は、得意なサーキットで、テストでも走っているんで、自信を持って走れるサーキットです。金曜日からセットアップもしっかり考え、今回の反省も踏まえてやりたいと思います



監督 立川 祐路

なんと前から良いのか、若いレースでしたわ。2台ともスタートしてから、思い切ってすべピットに入る戦略を取りましたが、まわりも予選で下回っていたチームは、同じような戦略にならなくて予選で追い付いたが、あんなにみんなが入るとは思いませんでした。決勝を命じてペースを速くしないと上では遅くてもいいので、最後までペースアップ。次の富士では、巻き返さるとは思っています

決勝日も、予選日と変わらず曇りから不安定な天候。しかし、雨は露雨程度。決勝レースを迎える頃には、初夏の日差しも射した。朝のフリー走行は、昨日の予選からトライしたセットアップの車が多いが、スタートで先行した。そこで先頭を争うために、短縮する時間は十分にないけれど、別のセッションにする事に決めた。38号車は、11位。39号車は2位とまずまずの感触を得たが、必ずしも納得のいくものではなかった。スタート直前のウォームアップ走行は、38号車15位、39号車8位。クルマの最終確認をし、決勝に備えた。午後2時20分、決勝がオンタイムでスタートすると、1コーナーの攻防で、2台ともにポジションを落とす。38号車石浦は13番手、39号車坪井は18番手。レース序盤では、予選で下位に沈んでしまったクルマが、われわれと同様ラップタイムの速いソフトタイヤで追い上げを図るためピットに早くに入る戦略を取りピットに向かう。まず戦略通りピットに向かったのは、39号車。1周目でピットインし、ソフトタイヤに置き替え給油しセッティングした。上位を奪も、厚層のピットインが落ちると、坪井はしばらく、18番手のポジションで走行をした。大きな動きはなく、膠着状態がしばらく続いた。終盤に入ると、他車のトラブルによる脱落もあり、16番手まで順位を上げていたが、SC走行が続いた後、リスタート直前のSPコーナーでアクセルを踏みすぎスピンを喫してしまい、残念ながらリタイア

アとなった。一方、38号車の石浦は、3周目でピットに入った。実はこれは、菅生入りする前に考えてもいた戦略。坪井の1周目のピットインは、リスキーと考えた石浦。2台は同時に見えて別の戦略を取った。3周目のピットインでも燃料は足りていないため燃費走行に絞った。アグリックに前を追いかけられる隙をほしかったが、今回はどうするか。他車が脱落していく中、56周目には8番手までポジションを上げた。終盤セーフティカーが入るなど、アクシデントはあったものの、このまま8位でチェッカーを受けたが、他車のベナ

ルティーがあり最終7位でポイント2点を獲得した。今回、レース中盤はポジション的には、動きの少ないレースではあったが、2台は燃料を気にしつつ、コースにクルマを置くことを考えた。石浦のピットインは、これを前に一気に挽回したいところ。また、坪井の1周目ピットインは後方であったものの、リタイアを避けるコメントを出すなど、前向き。ルーキーとして経験値を増やす過程と見え、次に期待したい。次戦は、7月13日(土)、14日(日)富士スピードウェイで開催される。走り込んだサーキットで、巻き返しを図りたい。